

**会議結果報告書**  
(会議内容全文)

会議の名称	令和4年度第2回札幌市子ども・子育て会議 認可・確認部会
日時・場所	令和4年8月5日(金) 午前10:00~11:00 札幌市建設局みどりの推進部大会議室
出席委員 5名/5名中	星 信子、加藤 智恵、菊地 秀一、深澤 梨恵、藪 淳一(敬称略)
傍聴者数	2名

議事	概要
1. 認可・確認部会の運営について	<p><b>【部会長 会議開催】</b> 本日の議題は、「認可確認部会の運営について」、「札幌市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し」の2件の審議である。</p> <p><b>【事務局説明】</b> ○資料1「認可・確認部会の運営について」を用いて説明 これまで部会長の職務を代理する委員については、前回会議をもって退任された豊田委員が指名されていたため、「札幌市子ども・子育て会議条例第9条第5項」の規定に基づき、新たに部会長の代理者をあらかじめ定める必要がある。 星部会長からの指名により、加藤 智恵 委員がその職務を代理する委員をお願いすることとする。</p> <p><b>【意見・質問なし】</b></p> <p><b>【審議結果】</b> 部会長の指名についての報告事項であるため、採決なし。</p>
2. 今後の保育所整備等について	<p><b>【事務局説明】</b> ○資料2「今後の保育所整備等について」を用いて説明</p> <p><b>【委員意見・質問なし】</b></p>
3. 事業計画の中間見直し(改定案について)	<p><b>【事務局説明】</b> ○資料3—1「札幌市子ども・子育て支援事業計画の改定案について」を用いて説明 ○資料3—2「札幌市子ども・子育て支援事業計画 改定案(新旧対照表)」を用い</p>

て説明

**【主な委員意見・質問】**

○が委員の発言

→が事務局回答

○現在の札幌市子ども・子育て支援事業計画（以下「事業計画」という。）では、保育ニーズ量が主な観点になっているところ。今後、保育の供給量が充足していくことで、保育の「質」が議論の中心になっていくと考えている。次期（R7～R11）事業計画では、「量」についてのみではなく、「質」についても盛り込んでいただきたい。また、認可・確認部会では、「質」という観点でも議論が出来ればよいと考えている。

○次期事業計画の策定にあたり、次のニーズ調査はいつ頃行う予定か。

→次期事業計画の計画開始年度が令和7年度からであるため、令和5年度中にニーズ調査を実施し、令和6年度に次期事業計画を策定するスケジュールを想定している。

○保育の質を高めるためには、保育士確保が重要であると考えている。

他の業種では、人材紹介会社を利用し職員確保を行わなければならないほど、人材不足の業種もある。しかし、人材紹介会社を利用すると、紹介手数料により、経営面を圧迫してしまう。ハローワークが行政機関としてあるものの、あまり機能しておらず、人材紹介会社を利用しているのが実態である。保育業界でも同様に、人材紹介会社を利用しているのであれば、行政が人材確保の仕組みを作ることが重要であると思う。

また、「若い保育士をどのように育てるか」ということにも着目すると良いと思う。例えば、退職する保育士に退職理由を調査し、その理由を分析して、市として、どのようなサポートを行うか検討してみると良いと思う。

○保育人材確保については、人材紹介会社を利用しているところも多い。ハローワークに求人掲載を行ってもなかなか人材確保に至らず、人材紹介会社に紹介手数料を支払ってでも人材確保を行っているのが実態である。

札幌市では、既に保育人材紹介事業を実施しているが、それでも、利用者は多くない。そもそも、人材が他の業種に流れてしまう。今後、札幌市と協力しながら、問題を解決していきたいと考えており、また、事業者側でも雇用継続に向けて努力することが必要であると認識している。

人材を多く確保できれば、職員にも余裕が生まれ、良質な保育を提供することが可能となり、人材定着にも繋がると考えられることから、引き続き札幌市と協力しながら人材確保を進めていきたいと考えている。

○世間にはかなり「潜在保育士」がいる。潜在保育士が、保育業界に戻れるような環

境を作ることも大事である。特に、出産後に職場復帰することのハードルは高いと考えられ、人材確保とは、ただ若い人をたくさん採用し、育てるだけというわけではなく、多方面から考えていかなければならない。

○潜在保育士の発掘と保育士のキャリア形成が重要である。保育士という職業が、重要なもの、魅力的なものであり、保育士を大切にするという札幌市の姿勢が世間に伝わればよいと考える。保育士を大切にすることは、子どもを大切にすることにつながるので、札幌市でも是非、検討していただきたい。

先般、就活情報サイトで、底辺の職業ランキングなるものが発表されたが、ランキングの中に保育士が含まれていた。こんなに専門性の高い重要な職業なのにも関わらず、保育士に対する世間の認識は、きつい、誰にでもできる、給料が低いなど。私たちも、保育者の大切さについて、しっかり考えて、保育士を守ることは子どもを守ることに繋がることを、上手に発信したり、検討したりできるとよい。このように「質」に関する議論も大事だと思う。

札幌市には、人材確保をより一層推進していただきたい。

なお、会議の中で、若い職員の早期離職について議論があったが、近年、他の業種と比較して、保育士の早期離職率は、低くなってきているため、参考にお知らせする。

○保護者の中には、本来は保育を必要とする家庭であるが、ご自身でそのことに気づいていない保護者もいるように感じる。そのため、ニーズ調査では、本当に必要なニーズ量が出ていないのではないかと。ニーズ調査はどのような手法で行っているのか。

→ニーズ調査は、無作為に抽出した札幌市内に居住する0歳から5歳のお子さんを持つ保護者15,000人に対し、アンケート用紙を送付している。アンケート用紙には、世帯の就労状況や保育所の利用希望について記載する設問を設けており、保育所等の利用希望の意思があるかどうかによって、ニーズ量を推計しているため、個別の世帯状況などは掴み切れていない。ただし、直接リンクはしていないが、ニーズ調査には、「子育てでどういったことが大変か」、「相談できる人はいるか」などの設問は設けている。なお、ニーズ調査の方法は国から示されているものを参考に行っている。